

ほたるの里づくり（金田地区）



沢水に空なる星の映るかと思ゆるは夜半の螢なりけり
（後拾遺和歌集 藤原良経）

6月といつと、じめじめした入梅の季節と感じられますが、6月上旬から6月中旬は螢狩りの時期でもあります。

昔は町内各地の田や小川に螢が飛んでいました。しかし、生活排水や農薬、里山の放棄による水辺環境の悪化などによって、多くの螢が姿を消しました。

螢は幼虫の時に水の中で生活します。このため、螢には水のきれいな環境が必要です。

ほたるの里として注目を集めるようになった金田地区は、公民館を中心にほたるの里づくりに取り組み、地区の皆さんによる川や周辺の清掃活動、種螢の収集、餌となるカワナなどの放流などの地道な活動が身を結び、近年、螢の群生が見られるようになりました。

現在、金田地区で螢を見ることができるようなのは、地元の方々の保護活動によって、環境が保たれているためです。今後この環境を維持するためにも、螢を鑑賞する時は、マナーを守った鑑賞をお願いします。

螢は日没の1時間後から飛び始め、午後9時を過ぎると飛び数が減ってきます。

螢鑑賞のマナー

- ① 螢を採らないでください。
- ② 螢の鑑賞は、夕方から深夜にかけての時間帯となります。車で走り回ったり、大きな声で騒いだりしないでください。
- ③ こみは持ち帰るようお願いいたします。
- ④ 自家用車で来られた場合は、停車中はエンジン切るようにしてください。
- ⑤ 螢は光でコミュニケーションを図る昆虫です。懐中電灯や車のライトを螢に向けてください。また、ストロボを焚いての写真撮影もご遠慮ください。

